

明日を向いて

教材研究

学習目標 曲想の変化を感じ取って、響きのある声で合唱しよう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 音色、旋律、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現(1)歌唱 ア、イ(ア)、ウ(ア)

(共通事項) 音楽を形づくっている要素：音色、旋律、テクスチャ、構成

教材の有効性

生徒の心に寄り添った歌詞

不安やとまどいを抱えながらも、自分らしい未来を模索する、思春期の中学生の心に寄り添った内容の歌詞である。曲想と歌詞の内容との関わりを考えながら、共感をもって歌うことができる。

曲想の変化を生かした表現の工夫

Ⓐ……低音域で落ち着いた下行形中心の旋律、*mp*～*mf*、優しく落ち着いた感じの伴奏、など

Ⓑ……高めの音域で勢いのある上行形中心の旋律、*f*、力強さや勢いを感じる伴奏、など

このような曲想の変化とその根拠について考え、ⒶとⒷの曲想の違いを意識しながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。

テクスチャの理解

斉唱(Ⓐの部分)と混声三部合唱(Ⓑの部分)の2通りのテクスチャが対照的に用いられており、実際の歌唱活動を通してテクスチャの理解を深めることができる。

道を歩けば

教材研究

学習目標 拍にのって、旋律の動きを理解して合唱しよう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 音色、リズム、旋律、テクスチャ、構成を知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 歌詞に込められた思いが音楽にどのように表わされているかに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、他者と声を合わせて歌う喜びを味わう。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A 表現(1)歌唱 ア、イ(ア)、ウ(イ)

(共通事項) 音楽を形づくっている要素：音色、リズム、旋律、テクスチャ、構成
用語や記号など：拍子

教材の有効性

歌詞と旋律との関わりを生かした表現の工夫

旋律の動きやフレーズを生かし、言葉を大切にしながら曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。

テクスチャの理解

前半が斉唱、後半が混声三部合唱という構成になっている。合唱部分は和声的な合唱に加え、多声的な合唱も一部含まれており、実際の歌唱活動を通してテクスチャの理解を深めることができる。

8分の6拍子の感得と表現

8分の6拍子の拍子感とリズムを感じ取り、その特徴を生かしながら曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。

翼をください

教材研究

学習目標 パートの役割を理解して合唱しよう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) リズム、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 曲想と歌詞の内容との関わりや、声部の役割と全体の響きとの関わりに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、他者と合わせて歌うことに親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現(1)歌唱 ア、イ(ア)、ウ(イ)

〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素：リズム、テクスチャ、強弱、構成

教材の有効性

曲想の変化やパートの役割を生かした表現の工夫

A**B****C**それぞれの部分の曲想の違いを感じ取り、パートの役割を考えながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。

音楽の特徴の理解

「学びのコンパス」を活用して、パートの役割、テクスチャ、強弱、伴奏の特徴などについて整理しながら理解することができる。

クラス合唱における表現の工夫

「学びのコンパス」を活用して、自分の意見と友達の見解とを比較しながら、学級全体で曲にふさわしい合唱の表現を工夫することができる。

荒城の月

教材研究

学習目標 歌詞と旋律が生み出す雰囲気を感じながら歌おう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 歌詞の表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国で長く歌われ親しまれている歌曲を歌い継いでいく心情や態度を育む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A 表現(1)歌唱 ア、イ(ア)、ウ(ア)

〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素：速度、旋律、強弱

教材の有効性

短調の雰囲気を生かした表現の工夫

文語体の歌詞と短調の旋律が生み出す独特な雰囲気を感じながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。

旋律と強弱との関係の理解

旋律の動きと強弱との関係に着目し、その自然な結び付きが歌詞のもつ重々しさやせつなさ、文語体のみやびな雰囲気をより強く表現していると気付くことができる。

日本歌曲の美しさの感得

七五調の歌詞の言葉のリズムやまとまりを生かし、詩の情緒を大切にしてみつられた洋楽黎明期(明治時代)の日本歌曲に親しむことで、我が国で長く歌われ親しまれている歌曲を歌い継いでいく心情や態度を育むことができる。

サンタ ルチャ

教材研究

学習目標 曲想を生かして表情豊かに歌おう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 音色、リズム、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 3拍子の雰囲気を感じ取り、強弱を生かした表現の工夫や原語の美しい響きに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現(1)歌唱 ア、イ(ア)、ウ(ア)

〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素：音色、リズム、旋律、強弱
用語や記号など：拍子

教材の有効性

曲想を生かした表現の工夫

3拍子の流れにのって、旋律の動きやリズムの反復、変化を感じ取り、強弱などを生かしながら曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。また、その活動を通して、音楽のもつ特徴や雰囲気が、音楽の構造と深く関わっていることを理解することができる。

曲種に応じた発声の理解

参考曲の鑑賞を通して、のびやかな美しい歌声に触れ、曲種に応じた発声について学習することができる。原語で歌うのが難しい場合は日本語でもよいが、原語の母音の美しさを生かして独唱し、のびのびとした発声で歌うことによって、曲想をより深く感じ取ることができる。

Joyful, Joyful

教材研究

学習目標 曲想の変化を生かして表情豊かに歌おう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 旋律の特徴や曲想の変化及び曲にふさわしい表現の工夫に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現(1)歌唱 ア、イ(ア)、ウ(ア)

(共通事項) 音楽を形づくっている要素：リズム、速度、旋律、強弱

教材の有効性

曲想の変化を生かした表現の工夫

ゆったりとしたバラード調の[A]の部分と、スピード感のあるロック調の[B]の部分との曲想の違いを感じ取って、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫することができる。

音楽の特徴の理解

「学びのコンパス」のコーナーを活用して、リズム、速度、旋律に注目することで、曲想の変化が何によって生み出されているのかを理解することができる。

Let's Create!

教材研究

学習目標 音の特徴や重なり方、構成を工夫してリズムアンサンブルをつくろう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 音色、リズム、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、まとまりのある創作表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現(3)創作 ア、イ(イ)、ウ

〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素：音色、リズム、テクスチャ、構成

教材の有効性

音素材や構成上の特徴を生かした音楽の創作

ボディー パーカッションという音素材の特徴や、音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解し、その知識を生かしながら創作表現を創意工夫することができる。

反復、変化、対照などの理解と活用

リズムパターンを組み合わせるイメージに合った表現を工夫することを通して、反復、変化、対照などの意味とその効果について、より深く理解することができる。

器楽の学習との関連

器楽教材「Session I」(中学生の器楽p.84)と結び付けて学習することによって、音色や音の重なり方の特徴についてより深く理解し、音楽としてより魅力的な表現を目指すことができる。

フーガ ト短調

教材研究

学習目標 旋律が重なり合っていくおもしろさを味わおう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。(知識)
- (2) 音色、旋律、テクスチャ、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

B 鑑賞(1) 鑑賞 ア(ア)、イ(ア)

(共通事項) 音楽を形づくっている要素：音色、旋律、テクスチャ、形式
用語や記号など：調

教材の有効性

バロック時代のオルガン音楽のよさや美しさの感得

曲や演奏に対する評価とその根拠などについて考えながら、バロック時代のオルガン音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。

フーガの形式の理解

主題が、次々と追いかけるようにして重なり合い、転調しながら展開していくフーガの形式のテクスチャを知り、曲想と音楽の構造との関わりについて理解することができる。

パイプオルガンへの興味・関心

パイプオルガンの音色に親しみながら、その構造や歴史を知ることによって、オルガン音楽に対する興味・関心を育むことができる。

「アイダ」から

教材研究

学習目標 オペラに親しみ、その音楽を味わおう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。(知識)
- (2) 音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

B鑑賞(1)鑑賞 ア(ア)、イ(ア)

(共通事項) 音楽を形づくっている要素：音色、旋律、テクスチュア

教材の有効性

オペラの音楽のよさや美しさの感得

音楽、文学、演劇、舞踊、美術などが一体となったオペラに親しみ、生活や社会における音楽の意味や役割などについて考えながら、オペラの音楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。

状況や心理の表現の理解

場面の状況や登場人物の心理などを表現するために、音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱などがどのように生かされているのかを知り、曲想と音楽の構造との関わりを理解することができる。

オペラへの興味・関心

オーケストラの響きとともに、独唱、重唱、合唱などの編成や、様々な種類の声の音色について知り、それらが一体となって演奏されるオペラへの興味・関心を育むことができる。

他の芸術との関わりを理解

総合芸術としてのオペラの特徴と、その背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解を深めることができる。

歌舞伎「勸進帳」

教材研究

学習目標 歌舞伎に親しみ、その音楽を味わおう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史、他の芸術との関わりについて理解する。(知識)
- (2) 音色、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 歌舞伎特有の表現、長唄の節回しなどに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、自分の生活と関わらせながら我が国の伝統音楽に親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

B鑑賞(1)鑑賞 ア(イ)(ウ)、イ(イ)

〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素：音色、リズム、速度、旋律
用語や記号など：間^ま

教材の有効性

歌舞伎のよさや美しさの感得

音楽、舞踊、演技が一体となった日本の伝統的な演劇に親しみ、生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性や固有性などについて考えながら、歌舞伎のよさや美しさを味わって聴くことができる。

歌舞伎の音楽の特徴の理解

長唄はもとより、歌舞伎に用いられる音楽全体の、声や楽器の音色、旋律の特徴などについて知り、曲想と音楽の構造との関わりを理解することができる。

歌舞伎の歴史や背景の理解

日本を代表する伝統的な演劇の一つである歌舞伎の上演形態や歴史について知り、歌舞伎の音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解を深めることができる。

文楽「新版歌祭文」から“野崎村の段”

教材研究

学習目標 文楽に親しみ、その音楽を味わおう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解する。(知識)
- (2) 音色、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 義太夫節の声や楽器の音色、表現の特徴と人形の動きとの関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

B 鑑賞(1) 鑑賞 ア(ア)、イ(イ)

(共通事項) 音楽を形づくっている要素：音色、速度、旋律

用語や記号など：間^ま

教材の有効性

文楽のよさや美しさの感得

太夫、三味線、人形が一体となって表現する日本の伝統芸能に親しみ、音楽表現の共通性や固有性などについて自分なりに考えながら、文楽のよさや美しさを味わって聴くことができる。

義太夫節の特徴の理解

文楽における義太夫節の役割や、義太夫節の声や楽器の音色、旋律の特徴などについて知り、曲想と音楽の構造との関わりを理解することができる。

文楽の歴史や背景の理解

日本を代表する伝統芸能の一つである文楽の上演形態や歴史について知り、文楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解を深めることができる。

義太夫節「野崎村の段」から

教材研究

学習目標 声や音楽の特徴を生かして義太夫節を語ろう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 音色、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 義太夫節の声の音色やセリフの抑揚、節回しの特徴に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

A表現(1)歌唱 ア、イ(イ)、ウ(ア)

〔共通事項〕 音楽を形づくっている要素：音色、旋律
用語や記号など：間ま

教材の有効性

我が国の伝統的な歌唱を生かした表現の工夫

義太夫節の模範演奏を聴いてその声や歌い方の特徴を感じ取り、自分なりに模倣しながら歌唱表現を創意工夫することができる。

曲種に応じた発声

模範演奏の演奏者による具体的なアドバイスを通して、声の音色や響きと発声との関わりを理解しながら、発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けることができる。

鑑賞の学習との関連

鑑賞教材「文楽『新版歌祭文』から“野崎村の段”」(教科書p.64)と結び付けて学習することによって、我が国の伝統音楽への理解を表現と鑑賞の両面からより一層深めることができる。

世界の諸民族の音楽

教材研究

学習目標 世界のさまざまな声の音楽を味わおう。

三つの資質・能力別に示した学習の目標

- (1) 諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解する。(知識)
- (2) 音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、諸外国の様々な音楽に親しむ。(学びに向かう力、人間性等)

学習指導要領の内容との関連

B 鑑賞(1) 鑑賞 ア(ウ)、イ(ウ)

(共通事項) 音楽を形づくっている要素：音色、リズム、旋律、テクスチャ

教材の有効性

世界の諸民族の音楽のよさや美しさの感得

「学びのコンパス」を活用して、声に焦点を当てて世界の諸民族の様々な音楽を聴き、音楽表現の共通性や固有性について考えながら、それぞれの音楽のよさや美しさを味わうことができる。

音色や旋律などの特徴の理解

声楽4種を取り上げ、世界の諸民族の様々な音楽の特徴(音色、リズム、旋律、テクスチャなど)と、その特徴から生まれる音楽の多様性を理解することができる。

日本の伝統音楽との比較

日本の歌舞伎(教科書p.54)や文楽(教科書p.62)と比較鑑賞することで、声の音色や旋律の特徴などの違いによる音楽の多様性を、より深く理解することができる。